

民主化闘争情報

No. 873
2013年2月4日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

浦和電車区事件裁判の被害者である吉田光晴氏は株式会社東日本環境アクセスに出向していたが、2月1日付で出向が免ぜられ、営業主任としてJR東京駅に着任した。

完全勝利の浦和電車区事件 吉田光晴氏が2/1付でJR東京駅に着任！

浦和電車区事件は、前途ある吉田光晴氏を暴力的に吊し上げ、組合脱退そして会社退職まで追い込んだ強要事件であり、昨年2月の最高裁上告棄却により、被告7名の「強要罪」が確定し、JR連合の「被害者救済」の取り組みは、三鷹電車区事件の佐藤久雄氏の運転士復帰に続き、完全勝利を果たすことができた。一方で、吉田氏は2007年12月にJR東日本を相手に復職を求める民事訴訟を起こしたが、和解が成立し、2010年1月に8年ぶりにJR東日本へ復職し、株式会社東日本環境アクセスに出向していた。そして、本年1月に出向満了期間を迎え、2月1日付で晴れてJR東京駅に着任することとなったのである。

昨年2月22日に開催された「浦和電車区事件完全勝利報告集会」で挨拶に立った吉田氏は「(中略) 私の闘いはまだ終わっていない。JR東日本に復職したものの、出向という立場であり、今年はお出向期間満了の年だ。私の最終的な目標は乗務員復帰、そしていかなる職場においても安全に安心して勤務をすることだ。」と述べている。今回の発令は残念ながら退職時の乗務員職場ではなかったが、JR東日本本体への復職を果たしたことは大いなる前進である。闘いはまだ終わっていない。JR連合として、乗務員職場復帰にむけた環境整備を引き続き図っていく決意である。

貨物鉄産労の組織拡大が続く！！ 日貨労から、23歳と24歳の若手が加入！

貨物鉄産労では、昨年の定期大会以降、今年度新規採用者2名を含む3名の組織拡大(日貨労から2名、国労から1名)を図ってきたところだが、西浜松駅勤務の23歳と24歳の若手組合員が勇気をもってJR総連・日貨労にNOを突きつけ、1月30日付でJR連合・貨物鉄産労への加入を果たした。

2月1日に開催された、JR連合第25回中央委員会で発言に立った、貨物鉄産労森泉副委員長は「JR連合東海地協そして青年女性委員会の全面的な支援によって、若手2名の加入を果たすことができた。JR貨物の未来のためにも、組織拡大に全力を傾ける」と揺るぎない決意を表明した。

JR連合は第25回中央委員会で1999年から取り組む「民主化闘争」の中間総括を行い、民主化三単組における集中的取り組みを行うことを確認した。JR連合として、あらゆる手段を講じて民主化闘争を加速させる決意である。

**JR総連組合員の皆さん、明るく元気なJR連合に結集しよう！
心から歓迎します！！**